

# 留学 行けないけれど...

## 新型コロナウイルス 学生足止め

秋から、海外で学ぶ予定だったのに、政府は今年、外国人留学生の入国を解禁したが、日本から海外へ渡航して学ぶ予定だった若者たちの多くが、国内で足止め状態になっている。コロナ禍の収束がみえないなか、それでも「日本でできることを」と、模索を続ける人たちがいる。

毎晩11時、東京都分寺市の村川智哉さん(19)はパソコンを開く。

高校2年のころから、海外大のカリキュラムに魅力を感じるようになり、この秋、米カリフォルニア州のリベラルアーツカレッジ、ポモナ大学に入学。それに先立ち、「授業は完全オンラインで実施する」と連絡が入り、学生ビザも出ないことになった。

米国との時差で、授業は午後11時から朝まで続く。中国語、コンピューターサイエンス、社会学……。後で授業録画を見ることができ、双方方向授業やグループ討議もあるため、できるだけ深夜も同じ時間に受けようとした。だが疲れてしまい、一部は早朝から授業録画を見るようにしたが、午後は課題、夜から授業と、ハードな日々が続く。残念なのは友達ができないうこと。「この状態がいつまで続くのかと思うけれど仕方ない。頑張ります」

留学のため仕事を辞めた社会人学生も大変だ。川崎市の大塚彰彰さん(39)もその一人。今年、米ハーバード大の公衆衛生大学院と公共政策大学院に合格した。沖縄県の公立高から自治医科大を卒業、栗国島、宮古島などで医師として働いた。今年3月には神奈川県内の病院で、救急総合診療科の医師として、新型コロナ

## 授業は完全オンライン 昼夜逆転

ナウイルス重症患者の治療にあたった。「公衆衛生学や公共政策学も学び、社会の構造的問題や個人のおかれた環境を考慮して健康にアプローチしたい」。そんな志を抱き、秋に渡米する予定で臨床医も辞めたが、授業が完全オンラインになり、渡米もできなくなった。

### G.P.A.の質問に根こそぎ答える!

大学「学びや」

エッセイ7割 成績3割

「アヤの白熱!留学教室」と題して、動画で海外大学留学の方法について詳しく解説する向井彩野さん=YouTubeから

## 「今できること」前向きに

き続けなければならないことは絶対ある」と前を向く。

今月から北海道厚岸町に移り住み、北海道大北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所で研究を手伝っている。朝から船でアザラシやラッコの生態を観察したり、カニや魚をとって寮で自炊したり。夜はオンラインでハーバード大の生態学の授業や指導を受け、早朝は教授らとミーティング。学生同士の交流がないのは寂しいという。

向井さんは、留学を志す人のために、YouTubeなどで海外大学の留学方法などを動画配信している。「コロナ禍でも自分を尊重してくれるコミュニティを、リアルでもオンラインでもいかに探すことが大切です」と話す。

## 奨学金、渡航なら給付対象外も

コロナ禍は留学生の奨学金事情にも影を落とす。

海外渡航について、日本政府は、留学先として人気が高い欧諸国の大半の危険レベルを3(渡航中止勧告)としている。

「トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム」や日本学生支援機構(JASSO)の海外学生支援制度(学部学位取得型)奨学金では、海外へ新たに渡航する留学生への支援は、危険レベル2(不要不急の渡航中止)以上地域を対象としてこなかった。だが、コロナ禍を受けた特例的支援として、国内で海外大のオンライン授業を続ける場合などは一部奨学金などの給付対象とし、開始時期の延期も認める。

2020年(令和2年)  
10月10日  
土曜日 夕刊

株 45889  
惜別  
いま聞く  
社会・総合  
社会  
TV・ラジオ 5.10

朝日新聞東京本社  
〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2  
電話 03-3545-0131 www.asahi.com

JOÃO GILBERTO LIVE IN TOKYO

2006年、東京国際フォーラムで収録された  
ジョアン・ジルベルト  
唯一の映像作品  
JOÃO GILBERTO / LIVE IN TOKYO [Blu-ray]  
SPACE SHOWER MUSIC PEXF-3243 ¥5,000+tax 全21曲 約90分

10代の性と心 描くドラマ

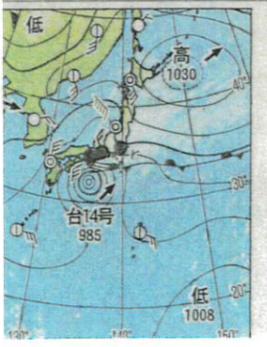
性の悩みに直面する高校生を描いたドラマがABEMAで配信中だ。制作者は「価値観をアップデートさせたい」と語る。

素粒 子

政権を援護したかったんだろが虚報はダメだ。フジテレビ上席解説委員のお粗末。

× ×

どの人事にも狙いがある。



コロナ禍は留学生の奨学金事情にも影を落とす。

海外渡航について、日本政府は、留学先として人気が高い欧米諸国の大半の危険レベルを3(渡航中止勧告)としている。

「トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム」や日本学生支援機構(JASSO)の海外留学支援制度(学部学位取得型)の奨学金では、海外へ新たに渡航する留学生への支援は、危険レベル2(不要不急の渡航中止)以上の地域を対象としてこなかった。ただ、コロナ禍を受けた特例的支援として、国内で海外大のオンライン授業を続ける場合などは一部奨学金などの給付対象とし、留学開始時期の延期も認める。

帰国せず海外に残った学生の多くへの支援は続いており、米国の大学2年の学生は「日本や海外にいる学生は支援し、海外に行く学生は支援しないのはおかしい気が

海外トップ大学進学を支援する塾「ルートH」責任者の尾沢章浩さんは「柳井正財団や江副記念リクルート財団など留学生の支援を続ける民間財団もあるので、研究などで現地でも学ぶ必要性が高い学生はコロナ禍でも現地へ戻っている。ただ、この秋から休学を選んできた来年度は、1年生が増えるので、来年度の進学は(1年生が増える)狭き門になる可能性もある」とみる。留学支援を手がける「アゴス・ジャパン」の横山匡代表は「全体的には留学に前向きな層が減った印象はない。『これからは海外の学びだ』と思っている人は多いのではないかと話す。」(宮坂麻子)